

「都内ホール・劇場、文化施設等のアクセシビリティの取組」 に関する調査結果

東京都では、平成 29 年 3 月に「ホール・劇場等施設のあり方」を策定・公表して以降、ホール・劇場等の基本情報調査及び情報提供に取り組んできました。令和 6 年度は、基本情報のほか、既存施設の更なる効果的な活用を促進するため、アクセシビリティについてのアンケート調査を実施しました。

【 調査概要 】

- ・ 期間： 令和 7 年 1 月 15 日から 2 月 28 日まで
- ・ 方法： インターネット（各施設がアンケート専用サイトから回答）
- ・ 調査対象： 都内の収容人数 300 人以上のホール及び劇場並びに美術館及び博物館
計 413 施設
- ・ 有効回答数： 210 施設（50.8%）

【 調査結果のポイント 】

■ 障がいのある方に向けた取組を **98.6%** の施設で実施

取組の例

※（ ）内の数字は回答のあった施設における取組の割合

情報提供の取組（ホームページ）

- ・ 障がいのある方を対象とした設備・サービス等の情報の掲載（41.0%）
- ・ テキスト文字の大きさを変更できる（24.8%）
- ・ 読み上げアプリに対応（18.6%）
- ・ やさしい日本語の利用（18.1%）

施設利用上の取組

- ・ 多機能トイレの設置（79.0%）
- ・ 文字表示支援デバイスや聴覚情報支援機器等のデバイスを案内に活用（10.0%）
- ・ 福祉系の資格を持ったスタッフの配置（4.8%）

鑑賞支援の取組

- ・ 車いす席を設置（40.5%）
- ・ 料金の減額・免除制度の設置（25.7%）
- ・ 磁気ループ・デジタル補聴援助システム等の聴覚支援機器の整備（18.1%）
- ・ アクセシビリティを高めた展示の実施（17.6%）
- ・ 視覚障がいのある方向けのプログラム等の実施（4.8%）

■ 外国にルーツのある方に向けた取組を81.0%の施設で実施

取組の例

情報提供の取組

- ・ ホームページで多言語に対応している (54.3%)
- ・ チラシ・ポスター等の紙媒体を多言語で記載している (15.2%)

施設利用上の取組

- ・ 館内の掲示物やサインにピクトグラムの導入 (41.9%)
- ・ 館内の掲示物やサインの多言語への対応 (34.8%)
- ・ スタッフのやさしい日本語による案内 (29.0%)
- ・ スタッフの多言語による案内の実施 (20.0%)

鑑賞支援の取組

- ・ 展示等解説表示の多言語での表記 (21.0%)
- ・ 多言語対応した音声ガイド (6.2%)

■ 子育て中の方に向けた取り組みを92.9%の施設で実施

取組の例

情報提供の取組 (ホームページ)

- ・ 子育て中の方を対象とした設備・サービス等に関する情報を掲載 (35.2%)
- ・ 施設へのアクセス情報として、バリアフリールートの情報提供 (13.8%)

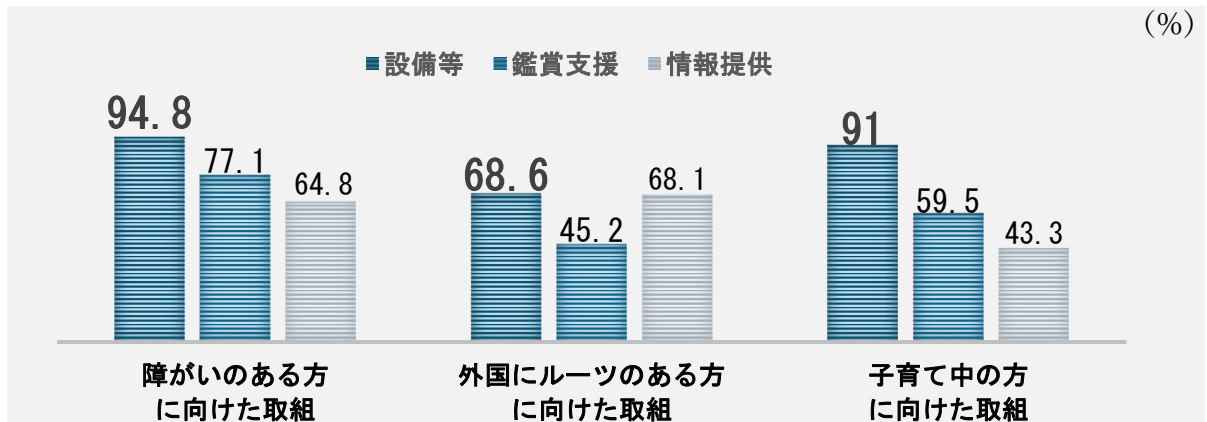
施設利用上の取組

- ・ 多機能トイレの設置 (76.7%)
- ・ 授乳室の設置 (39.5%)
- ・ キッズスペースの設置 (10.0%)
- ・ 福祉系の資格保持者によるサポートの実施 (4.3%)

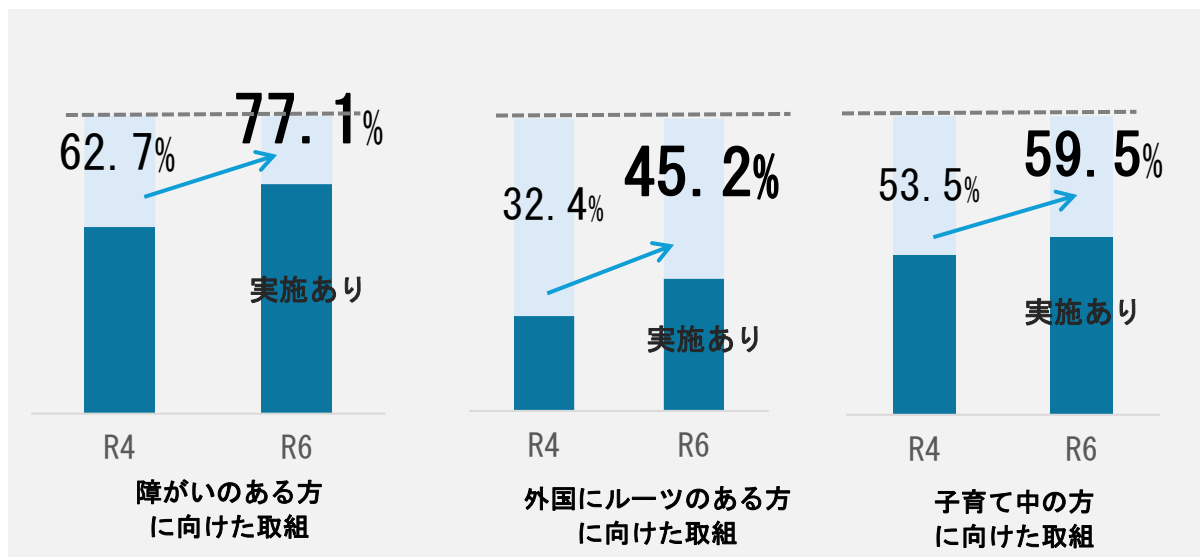
鑑賞支援の取組

- ・ 親子で一緒に楽しめる事業の実施 (34.8%)
- ・ 親子で鑑賞できるスペースの設置 (15.7%)
- ・ 託児サービスの実施 (8.1%)

■ [設備等]の取組は進んでいる一方、[鑑賞支援][情報提供]の取組が遅れている。



(参考) [鑑賞支援]の取組の実施状況の経年比較



※経年比較の対象 令和4年：「都内ホール・劇場、文化施設等の調査」（令和5年3月調査）」